第3章 箕面市架け橋期カリキュラム

カリキュラムの全体像

架け橋期カリキュラムについて

架け橋期カリキュラムは、幼保小が協働し、共通の視点をもって教育課程や指導計画などを具体化できるよう「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」（10の姿）を手掛かりとし、資質・能力を育むことを視野に入れながら策定したものです。「安心」を基盤に、5歳児（アプローチ期）における「学びの芽生え」から小学校1年生（スタート期）の「自覚的な学び」へと向かっていく学びのプロセスと必要な配慮などを可視化しています。

【カリキュラムの視点】

アプローチ期（5歳児）とスタート期（1年生）の教育課程をつながりが見えるように並べることで、育ちや学びの連続性を意識した保育・教育の実践に生かすことができます。

	アプローチ期（5歳児）	スタート期（1年生）
期待する子ども像	生活の場の広がり・他者との関係の広がり・興味や関心の広がり・依存から自立へなど こうした発達も踏まえた期待する子ども像	
遊びや学びのプロセス	諸感覚を通した体験を重ねる 過去の体験のつながり 遊びの中での気付き → 自覚的な学び プロセスを踏まえた内容・配慮	
園で展開される活動/小学校の生活科を中心とした各教科などの単元構成など	遊びを通した総合的な学び	生活科を中心に 合科的・関連的な指導
	具体的活動や教科などの単元など	
先生の関わり	幼児と先生との関係を中心としながら他の幼児との関係の広がりへ 自己の世界が広がり、物との関わり方、状況判断、他の幼児との関係ができてくる中での保育者の役割	関わりの多様化へ 丁寧な関わりを通して、自覚的な学びへ ・安心を生み、成長・自立を支える ・気付きをもとに考えることを促す ・気付きの質の高まりを促す
子どもの学びや生活を豊かにする園の環境の構成・小学校の環境づくり	●安心して遊びに没頭できる環境づくり ●自分の思いの実現や他者とつくる世界を楽しむ遊びの発展に配慮 幼児が自発的に環境に関わりたくなる状況をつくる	●自分の力で学校生活を送り自覚的な学びを生み出すような環境に配慮 安心して活動できる環境や主体的に学びに向かえる環境をつくる
家庭や地域との連携	ともに子どもを育むパートナーとしての連携づくり	
地域での取り組み	各地域・校区において持続可能な取り組み	
子どもの交流		
教職員の交流		

※上記の視点を踏まえ、具体的内容をカリキュラムに記載しています。

参考：文部科学省　幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き（初版）